

個別課題：緩和ケア研修会 医師受講率
(平成30年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
4 関西医科大学附属病院	緩和ケア研修会医師受講率「がん患者の主治医または担当医となる者」90%以上「初期研修2年目から初期研修終了後3年目までの医師」の受講率100%	平成30年3月時点で、がん患者の主治医または担当医となる者①が、96.6%、初期研修2年目から初期研修終了後3年目までの医師の受講率が65.7%②となっている。8月に同研修会を実施するため、①の基準値を堅持し、②を基準値に近づけることを目標とする。 ①については未履修者の直属長に通知し、受講を促進し、②の研修医には、電話等で趣旨を説明し、受講を促進させる。卒後臨床研修センター長にも研修医の受講を依頼する。	平成30年12月末時点で、がん患者の主治医または担当医となる者の受講率(①)が90.9%、初期研修2年目から初期研修終了後3年目までの医師の受講率(②)が61.5%となった。 ①②ともに3月時点から受講率が下がったのは、受講済医師の退職や研修医の緩和ケア研修会への認識がそこまで高くないことが要因と考えられる。	①については、引き続き、未受講者を診療科長に報告し、受講を促進してもらうこと、②については、電話での受講勧奨、卒後臨床研修センター長からの受講促進のほか、卒後臨床研修センターのオリエンテーション時に受講を促す等の方法をとる。
8 大阪南医療センター	(がん患者の担当医／2年目～5年目医師) 90%/100%	医長会での広報、医師へのメール発信 研修医受講の必修化 当センター開催だけでなく、府下開催日程の案内 未受講医師に対する個別的な研修案内	がん患者の担当:89.5%(44/47) 2～5年目医師:70.8%(17/24) がん患者担当医師については、概ね目標を達成できていると考える。 しかし、2～5年目、特に当院で研修医を行っていない4年目以上のがん患者の担当とならない専修医の受講率が悪く、目標達成に至っていない現状がある	未受講医師の受講医師についての確認 該当科長への情報提供
14 大阪赤十字病院	(がん患者の担当医／2年目～5年目医師) 目標 93%/80%	緩和ケア研修会修了証の未提出医師に対して、受講済みでないかの再確認を行う。 自施設主催の緩和ケア研修会に参加するように促す。 他施設主催の緩和ケア研修会の開催案内を配布し、受講を促す。 また、他施設が主催している緩和ケア研修会の案内を積極的に引き、さらに自施設主催の開催案内を勤務調整ができるよう配布時期を早める。	98%/98% 平成31年1月末現在 医師の採用情報を担当者が人事課よりききとり、都度、状況をきくことができ、また未受講の場合は受講案内を渡すなど行った成果であると思われる	次回からはe-ラーニングでの座学の習得が開始となるので、取り急ぎ受講を勧めていく。各診療科部長への声掛けや院内でのを進める。 研修会については1日開催となり、受講しやすくなるため、自院開催以外のスケジュールも広報するようにする
15 大阪市立大学医学部附属病院	緩和ケア研修会 2年目～5年目医師受講率100%	院内での研修会だけでなく卒後臨床研修センターとの協同で受講を促進する	2年目～5年目医師受講率61.5%と目標に到達せず	卒後臨床研修センターとの連携をより密接に行う
16 大阪急性期・総合医療センター	常勤医師 90% 研修医 100%	関係各科主任部長および研修管理室を通して修了者の把握と未修了者への働きかけを行った。	常勤医師93.8% 研修医100%で計画値を上回ったが、常勤医師の受講率は前年同時期よりも低下していた。	今後の人事異動に伴い、入職者の受講歴を確認し、未受講の場合の受講働きかけを行う。
20 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会吹田病院	緩和ケア研修受講率 ・がんで担当医となる医師: 90% ・初期臨床研修2年目～初期臨床研修終了後3年目まで: 100%	副院長より主要会議で受講の目的と受講率について広報、受講促進を行った。 未受講の医師に各診療科科長よりアナウンスを行った。研修医に対しては、研修担当医より直接受講を勧めた。	緩和ケア研修受講率 ・がんで担当医となる医師:86% ・初期臨床研修2年目～初期臨床研修終了後3年目まで:96% 毎年、申し込み後の前日当日のキャンセルもあり、目標値にまで届いていない。一方で、院長の受講ならびに目的・目標含めた受講促進の活動により、今まで受講のなかった診療科の医師の参加もみられ、全体的な受講率は少ないながらも上がってきている。	当院所属の医師の場合、受講申し込みがあり、キャンセルとなった場合は、その理由も添えて該当診療科科長に報告する。そのうえで他院もしくは次年度の受講を勧める、次年度に向けて事務局で未受講者をリストアップし、上長より集中的に声かけを行ってもらう。
23 社会医療法人 愛仁会高槻病院	PEACE研修受講率の向上 がん診療に係わる医師における受講率70%以上を目標とする。	・自施設でPEACE研修会を実施する。 ・診療科ごとの未受講者をリストアップし、診療科長に受講者を推薦(指名)してもらう。 ・臨床研修センターを通じて1年目を除く研修医への受講を勧める。 ・大阪府内のPEACE研修会の開催日時を掲示し、周知を徹底する。	1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師の受講率は73.9%であった。	・各診療科上長から受講の働きかけを行う。 ・研修会当日においては受講できるよう各診療科上長が勤務調整を配慮する。 ・最新の受講状況を把握し、がん診療に携わる未受講医師に積極的に働きかけを行う。

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
41 りんくう総合医療センター	100%(初期研修医と受講率の低い診療科医師の受講率)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の広報 ・受講率の低い診療科をピックアップし、研修を受講するよう促す。 	100%	広報の結果、院内対象の受講生は研修終了している
48 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	がん患者の担当医:目標90% 2年目～5年目医師:目標50%	<ul style="list-style-type: none"> ・未受講の医師をリストアップし、引き続き、がん診療委員会を通して、各診療科部長からトップダウンでの受講促進を継続する。 ・今年度当院で緩和ケア研修会が開催されるため、未受講者に優先的に受講を促進し、受講率を増加させる。 	12月時点での受講率は担当医83.7%、2年目～5年目医師41%であった。目標値にわずかに到達してはいないものの、昨年と比較し受講率は増加している。療科部長からトップダウンでの受講促進の効果が大きかったと考える。	引き続き、各診療科部長からトップダウンでの受講促進を継続する。研修医の受講率が低下しているため、医師研修管理委員会へ研修医1年目の医師が参加をできるよう調整を依頼する。日々の診療でオピオイドを使用している医師を優先的に受講促進できるようがん診療委員会を通して診療科部長に依頼する。
52 一般財団法人 住友病院	研修医(2、3年目)の緩和ケア研修会受講率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・自院開催研修会への参加調整 ・自院開催欠席者へのフォロー(他院開催分への参加促進) ・緩和ケアチームを中心とした緩和ケアへの理解の浸透 	研修会の目的等をカンファレンスにて周知、総合診療科の協力も得たことで全対象者が受講できる体制を構築した結果、15人中14人が修了(受講率:93.3%)	他院開催分への参加促進において、受講者、開催病院それぞれの都合を考慮すると困難な側面がある。院内大会や院内緩和ケアニュースなどを通じて当該研修会の重要性について啓蒙し医師の参加意識向上に努める。